

評価シート 様式

取組名	千葉の里山・森づくりプロジェクト～企業・県民・NPO・行政等の新たな協働による里山循環システムの再構築～		
実施団体名	千葉県	対象地域	千葉県の全域、特に京葉臨海コンビナート地域、北総地域
(代表団体名)		推薦団体名	

① 実施 状況	提案書に記載された取組内容について、当初の計画通り実施されているか	② 実施 体制	平成20年度に行われた取組の実施体制について
	<input checked="" type="checkbox"/> 申請時に予定した取組を適切に実施したと判断される。 <input type="checkbox"/> 申請時に予定した取組の一部が未実施となっている。但し、予定した主要な取組は適切に実施したと判断される。 <input type="checkbox"/> 申請時に予定した取組の一部又は全部が未実施となっており、特に主要な取組が実施されていない。		<input checked="" type="checkbox"/> 実施した取組について、当初の計画通り地域の関係者が明確な役割分担の下、各々主体的に実施されたと判断される。 <input type="checkbox"/> 実施した取組について、当初の計画通り地域の関係者が明確な役割分担の下、各々主体的に実施されたと判断されるものの、改善の余地が認められる。 <input type="checkbox"/> 実施した取組について、主体的に実施されたと判断できない。
	(備考・特記事項)		(備考・特記事項)
③ 効果	平成20年度に行われた取組の当初目標の達成状況について	④ 継続 展開 の見 込み	平成20年度に行われた取組の継続展開の見込みについて
	<input checked="" type="checkbox"/> 当初設定した目標を達成し、実施した取組が予定していた成果をあげたと認められる。 <input type="checkbox"/> 当初設定した目標の達成には至らないものの、実施した取組が予定していた成果の一部又は全部をあげたと認められる。 <input type="checkbox"/> 実施した取組が当初の目標の達成に至らず、予定していた成果をあげることができなかったと認められる。		<input type="checkbox"/> 実施した取組について、当初の計画通り又は発展的に継続展開が予定され、持続的・効果的に取組が進捗すると見込まれる。 <input checked="" type="checkbox"/> 実施した取組について、当初の計画とは一部異なるものの、取組方法の改善等により持続的・効果的に取組が進捗すると見込まれる。 <input type="checkbox"/> 実施した取組について、当初の計画通り持続的・効果的に取組が進捗するとは見込まれない。
	(備考・特記事項)		(備考・特記事項)

※①において「申請時に予定した取組とは異なる取組が行われた」場合や、③において評価シート作成時点で成果を把握できない場合など、留意事項がある場合に「備考・特記事項」欄に記載する。

評価シート 様式

取組名	千葉の里山・森づくりプロジェクト～企業・県民・NPO・行政等の新たな協働による里山循環システムの再構築～		
実施団体名	千葉県	対象地域	千葉県の全域、特に京葉臨海コンビナート地域、北総地域
(代表団体名)		推薦団体名	

⑤ 総合 評価	○ 複合性、先導性・モデル性、相乗効果・波及効果に関する所見
	○ 評価
	<input type="checkbox"/> ①～④及び「複合性、先導性・モデル性、相乗効果・波及効果」の全てにおいて評価が高く、「地方の元気再生事業」の趣旨に鑑みて優れた取組であると評価できる。
	<input checked="" type="checkbox"/> 「地方の元気再生事業」の趣旨に合致した取組であると評価できる。ただし、①～④及び「複合性、先導性・モデル性、相乗効果・波及効果」のいずれかについて改善の余地が認められる。
	<input type="checkbox"/> ①～④のうち1以上の項目で評価が低く、「複合性、先導性・モデル性、相乗効果・波及効果」においても特筆すべき点が認められず、「地方の元気再生事業」の趣旨に合致した取組であるとは評価できない。
	(評価の考え方及び次年度以降に向けた所見)
	<p>本取組は、フィールドワークやシンポジウムの展開により、里山再生の意義を周知するとともに、里山ドクターの派遣などを通じて、企業・県民・NPO・行政等の新たな協働による里山循環システムを再構築するという点で先導的な取組であると評価できる。今後は、対象を具体的なフィールド活動等に絞り込んだ上で地方の元気再生事業を継続することにより、本格展開に向けた継続的な取組が期待できる。</p> <p>次年度以降については、事業の本格展開に向けて、以下の視点を踏まえて取組内容を検討すべきである。</p> <p>具体的には、取組①「里山産品創出プロジェクト」については、平成22年度以降の本格展開に向けた具体的な成果が平成21年度中に得られるような取組内容とすべきである。取組②「森林燃料化プロジェクト」についても、本格的な事業化を前提に地方の元気再生事業以外の適当な支援措置を活用することも検討すべきである。取組③「新しい里山空間の創出」については、平成20年度の成果物となる「企画」と上記①②の取組内容との関連を整理し、平成22年度以降どのように継続させるのかを明らかにする必要がある。取組④「広域イベントの開催」については、県域を越えて行う必要性は認めにくい。</p>